

Background

在庫適正化活動を進めていく上での障壁は、1. 複合的要因で発生する在庫問題の整理の難しさ、2. 部門最適理論の先行、3. 個々実行施策が直接的に成果に現れにくいことため推進力が低下する事、が挙げられ、多くの企業がこの障壁をいかに乗り越えるかで苦労しています。

「事実認識（定量化）→発生要因解析→課題設定→実現性検証→実行計画→成果確認」、これは在庫削減活動に限らずすべての問題解決の共通のステップです。在庫削減活動におけるこのステップ適用の難しさは、在庫自体が、部門間や機能間の狭間にそれらの企業活動の結果として生じるものであり、本質的にはひとつの部門で完結できず、組織横断的な課題に手をつけねばならないところにあります。プロジェクト推進には、在庫発生メカニズムをクロスファンクショナルで理解し最適解を見出す力、活動メンバーへの動機付けとして活動の成果を定量化し評価できる仕組み、各部門単独の論理や既得権を打ち破り全体最適視点で推進できる強いリーダーシップ、この3つが必要不可欠と考えています。

Viewpoint

プロセス視点での構造化

現在生じている在庫を、業務プロセスに照らし合わせて定量化と発生要因の構造化を行う事で、業務実態との因果関係を可視化、共有化することが在庫適正化活動の第一歩です。この作業は、複雑な業務プロセスを紐解くことそのものと言えます。JMACは、さまざまな視点から在庫の層別化と発生メカニズムの整理を行うノウハウをご提供いたします。

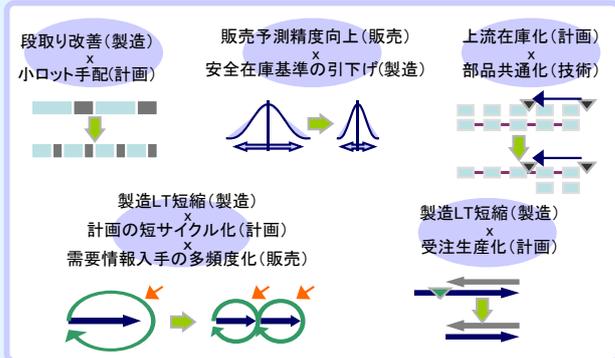


在庫削減の施策

在庫適正化施策は、それぞれの部門が単発的に実施してもその効果を十分に得ることは出来ません。製造部門と販売部門が相互の施策を理解し、はじめてその相乗効果を得ることができます。このためには、在庫発生メカニズムを理解した上で、全体最適の視点で推進する強いリーダーシップが求められます。

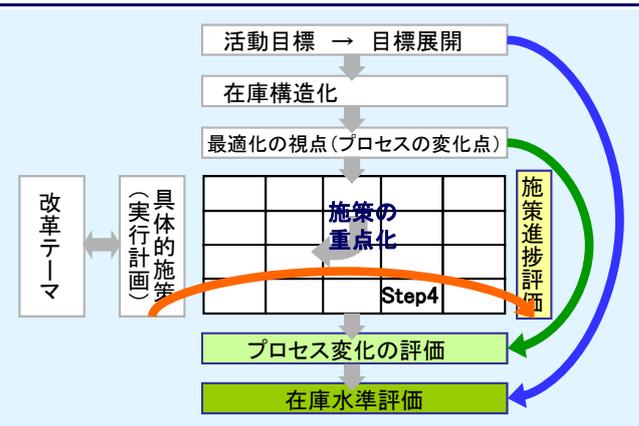
JMACは改善施策抽出のノウハウを提供した上で、中立的立場でプロジェクト推進のご支援をさせていただきます。

在庫削減の視点の例 (部門連携による相乗効果)



マネジメントシステム構築

在庫適正化活動は、施策の多くが実施後短期的な効果を得にくいこと、部門完結の効果が得にくいなどの特徴があります。プロジェクトを活性化し続けるためには、在庫水準の評価に加え、業務プロセスそのものを評価（納期遵守率、製造LTなど）し、変化を共有する仕掛けが大切です。「在庫水準評価」、「プロセス変化点評価」、「施策進捗評価」、JMACではこうした3つ観点から、活動に即した効果的な重点管理指標（KPI）を設定し、マネジメントシステムを構築する活動をご支援いたします。



在庫削減・適正化システム構築支援



Consulting Step

JMACではお客様の商品のバリエーションや事業規模、市場面における特性を踏まえ、JMAC独自の層別・分類技術を適用します。また、豊富な先進企業コンサルティング経験に基づき、お客さまの事業特性にあった目標展開と施策立案のご支援をいたします。



検討内容	STEP	アウトプット
ベンチマーク(基準)設定		
在庫マップ区分設定 サプライチェーンマップ 在庫実績データ収集	Step1 在庫マップ作成	在庫マップ
基準LT構造表 業務タイミングチャート 生産計画基準	Step2 在庫構造把握	在庫構造表
基準LT遵守率、 予測精度、調達LT表 納期変更実績 他	Step3 在庫発生要因解析	在庫構造別 発生要因
目指す姿検討 目標LT、業務タイミング 在庫基準、組織機能	Step4 改革テーマ抽出 目標設定	改革テーマ 一覧
テーマ目標値・ 担当部署・スケジュール決定 事業部在庫目標決定	Step5 部門別テーマ決定	テーマ実行 企画書

特に初期計画段階においては、独自の分析ノウハウで、在庫の事態把握、要因解析を行い、対象の絞込みと施策の重点化を行います。

Publication, etc.

- 「生産管理実務事典」 日本能率協会マネジメントセンター出版 2007年4月